

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」（平成30年度採択）

中間評価結果（公表用／ソフト分野）

番号	研究名	研究代表者	評価
30-3	学習型モニタリング・交通流動予測に基づく観光渋滞マネジメントについての研究開発	東京大学大学院 教授 布施 孝志	B
<p>&lt;研究の概要&gt;</p> <p>交通ビッグデータを活用した学習型の交通状態モニタリング手法及び交通流動予測手法を開発し、両者を統合して高精度化させた上で、エリア内の交通流動を改善するための適応型交通需要マネジメントスキームを構築する。また、提案手法を観光交通イノベーション地域等で試行し、実効性の高い渋滞対策等の検討に資する知見を提供する。</p> <p>&lt;中間評価結果&gt;</p> <p>学習型の交通状態モニタリングシステム、交通状態予測システム、さらには交通流動マネジメントスキーム等の個別研究項目について、研究成果を導いている。しかし、テーマ1以外では、必ずしもレベルの高い成果が出ているとは言えず、特にテーマ3に関連して幾つかの指摘がみられることから、指摘事項に留意しながら現行のとおりに推進することが妥当であると評価する。</p> <p>&lt;今後の研究計画・方法への指摘事項&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>個別研究項目それぞれ、さらには一連の研究全体について、しっかりと成果をまとめること。その際、「交通状態補間」や「解析基盤」について、その位置づけや効果、価値なども合わせて説明すること。</li> <li>テーマ3の交通流動マネジメントスキームの構築がシミュレーション実験にとどまるようなら、テーマ1をより充実させ、テーマ1に焦点を当てた研究計画とすることも検討すること。</li> <li>鎌倉観光渋滞の実態を十分に勘案しつつ、検討を進めること。特に、今年度は車の流動に着目しているが、人の交通量が車の渋滞に大きく影響を与えているところが鎌倉の特色とも考えられるため、留意して研究を進めること。</li> </ol>			

※本中間評価は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第39回新道路技術会議において審議したものである。